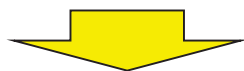


ブドウ晩腐病防除対策の総点検 ～菌種と生態の視点から～(R4～6)

果樹試験場

背景・目的

- ・ブドウ晩腐病は防除が難しい病害であるが、これまで薬剤の効果や感染時期、カサかけや雨よけ栽培の有効性を明確化。(平成29年度、令和2年度成果情報等)
- ・しかし、早場産地でも多発するなど、発生増加が懸念。
- ・菌種の違いが発病時期や被害に影響している可能性。



- ・菌種の分布や生態的特徴を明確化。
- ・生育期の有効薬剤を再選抜し、新たな視点で防除体系を見直し。



ブドウ晩腐病

主要病原菌

C. gloeosporioides

細分化



菌A

菌B

菌C

菌D

菌E

....

県内の分布状況は不明

研究内容

1年目

- 1 菌種別の分布と生態的特徴の解明
- ・形態的特徴、遺伝子解析等による病原菌種の同定



遺伝子解析
(PCR等)

2年目

- ・胞子飛散消長の確認
- ・病原力の確認



胞子飛散消長
イメージ

- 2 生育期の有効薬剤の再選抜
- ・病原菌接種による生育期薬剤(新規薬剤を含む)の効果試験



有効薬剤の
再選抜

3年目

- 【年次反復】
- ・胞子飛散消長の確認
 - ・病原力の確認

- 【年次反復】
- ・病原菌接種による生育期薬剤(新規薬剤を含む)の効果試験

期待される成果

- 1 本県におけるブドウ晩腐病菌の菌種や分布状況、生態的特徴の実態を把握
- 2 菌種ごとに高い効果を示す薬剤を選抜
- 3 本課題で明らかとなった研究成果が、果樹病虫害防除暦に反映され、生育期の防除体系を見直し

病気が少なくなって、
収量が安定したぞ。

